不退転

第 64 号
東江中学校
校長　神元 勉

やったね！英語弁論大会

15日(土)、高円宮杯第68回全日本中学校英語弁論大会沖縄大会が行われました。田中梨依乃さん（2年2組）が、見事に2位に入り、11月に東京で行われる中央大会への出場が決まりました。

それでは、日本語の原文を紹介します。

■お願い。お父さんを救って下さい。

それは突然の事だった。今まで元気だった父が、何の予兆もなく心臓が停止し倒れた。その日は日曜日。私は父と二人で家にいた。リビングにいた父が私を呼ぶ声を3度聞き、仕方なく父の方へ行くと、とても苦しそうにしている父がいた。そして間もなく動かなくなった。無我夢中で助けを呼び、気がつくと私は母と病院にいた。

しばらくすると、担当の医者が私たちに、父が助かる可能性が極めて低いこと、助かったとしても、今まで通り過ごせる可能性が低いことを、落ち着いた声でゆっくりと話した。「私たちもできる限りのことはします。」とも言った。

私はそのとき初めて、現実を受け止め、もう二度と父の元気な姿を見ることができなくなるのかも知れないと不安になった。同時に、なぜ名前を呼ばれたときすぐに駆け付けて、助けを呼ばなかったのか、応急処置の知識があったら父はすぐに大丈夫だったかも知れないと、自分を責め、自分の無力さと無念を実感した。

数日後、父が意識を取り戻したという連絡を受け、病室に急いで向かい恐る恐るドアを開けた。するとそこには、しゃべることはまだできないが、満面の笑みでベッドに横たわる父がいた。私は涙があふれた。普通、人間は心臓が停止してから2分以内に心肺蘇生を行った場合生存率は90％。4分以内だと50％。5分では25％だと言われている。しかし父の場合、最低でも5分は心肺蘇生が行われていなかった。それでも父は命をつなぎ戻ってきてくれた。私は心の底から、父の生命力に医療スタッフに感謝した。

私はその体験で今、普段ある日常が当たり前ではないことを学んだ。大切な家族や友だちや周りの人の存在に、私を支えてくれている人たちに、大切にしないといけないことを学んだ。人の命は、いつ、どこで、どのような形で無くなるのか分からない。それぐらい尊く、儚(はかな)いもの。だからこそ、今ある日常を、となりにいる大切な人の存在をありがたく思い、一日一日をかみしめて生きて行きたいと思った。

最近、連日のようにニュースで耳にする殺人事件、いじめでの自殺、テロ事件に、簡単に人の命が人によって奪われていくことを悲しく思う。そしてそのような事件があまりにも多いため、私たちはただ聞き流していることも悲しい。このような非日常的な知らせを当たり前のように聞き流さないで欲しい、もっとたくさん人がその事態を深刻に受け止める必要があると私は思う。

私の夢は海外で働き、いろいろな言語を使って様々な国の人々に、生きていることのありがたさ、命の大切さを伝えていきたいと考えている。どんな方法でそれを伝えることができるのか、考えているだけでワクワクする。もちろんそれはとても難しいことは思うが、世界がもっと平和になることを目指し、一歩ずつ着実に歩みを進めていきたい。今ある日常の幸せを噛みしめながら。

日本文でもなかなか難しい内容を英語で語るのですから、スゴいですね!!
本当におめでとうございます。

千葉　晶子(しょうこ)先生のコメント

４人の審査員から,「発音がとても良く，表情表現も素晴らしかった（とても強く訴えている)。」とのコメントがありました。

本番に強く，ほとんどノーミスで，スピーチを終え，審査結果が待ち遠しかったです。２位に東江中学校と呼ばれた瞬間，ＡＬＴのアンジー先生と抱き合って，喜びました。会場に駆けつけたご家族のお父さん，お母さん，お兄さんとも喜びを分かち合いました。